

キク茎えそウイルスによるピーマン病害の発生について

[現在の状況]

- ① 平成 22 年 3 月，神栖市のピーマンにおいて葉や茎にえそを生じ，新葉が退緑症状を呈する株が確認された。ウイルスによる病害が疑われたため，農業総合センター生物工学研究所で RT-PCR 法により検定した結果，キク茎えそウイルス (*Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)) を確認した。
- ② 本ウイルスによる病害はキク，トマト，アスター，トルコギキョウで発生が確認されている。本県においては，平成 20 年にキクで確認しているが，ピーマンにおける発生は，県内及び国内において初めてである。

[病徴]

発病した株では葉に退緑症状や円形のえそ症状を生じる（写真 1）。また，萎縮による奇形が見られる場合がある。茎にはえそ条斑症状を生じ（写真 2），果実には奇形やえそ症状を生じる場合がある（写真 3）。

[伝染方法等]

本病はウイルスを保毒したミカンキイロアザミウマ（写真 4）によって媒介される。ミカンキイロアザミウマは，幼虫期にウイルスに感染した植物を吸汁することでウイルスを獲得し，一度ウイルスを獲得した個体は死ぬまでウイルスを伝搬する（永続伝搬）。

キクにおいては種子伝染，土壌伝染及び通常の管理作業等による汁液伝染はしないと考えられているが，ピーマンにおけるミカンキイロアザミウマ以外による伝染は不明である。

[防除対策]

- ① 発病が認められた株は，伝染源となるため早期に抜き取り土中深く埋めるか，肥料袋等に密閉しておき，腐らせた後に処分する。
- ② 本ウイルスを媒介するミカンキイロアザミウマに対する各種防除を徹底する。
 - ・施設の開口部には防虫ネット等を張り，施設内への侵入を防ぐ。
 - ・UV カットフィルムや光反射マルチを利用すると，侵入や行動抑制の効果がある。
 - ・雑草は生息地になるので，圃場内外の除草を徹底する。
 - ・夏季の栽培終了後には，2 週間程度施設を密閉し，蒸し込み処理を行う。
 - ・定植時に粒剤を処理し，その後は青色粘着シートで発生状況を確認して薬剤防除を行う。



写真1 葉の円形えそ症状



写真2 茎のえそ条斑症状



写真3 果実の奇形・えそ症状



写真4 ミカンキイロアザミウマ